

平成 16 年 10 月 29 日

**国際防災協力のための科学技術に係るリスト（防災科学技術リスト）  
に関する仕上げ作業のお願い**

\_\_\_\_\_ 殿

文部科学省研究開発局  
防災科学技術推進室  
室長・中村隆行  
防災分野の研究開発に関する委員会  
防災科学技術に係るリスト作成作業部会  
主査・亀田弘行

拝 啓

時下ご清祥の段お慶び申し上げます。

さて、先般来る平成 17 年 1 月に開催予定の国連防災世界会議 2005 への我が国の具体的な貢献のひとつとして「国際防災協力のための科学技術に係るリスト」（以下、「防災科学技術リスト」と略称）作成に向け本アンケートをお願いしましたところ、貴殿には積極的なご回答を頂き有り難うございました。お陰様にて、合計 82 件の応募を頂き、これを元に、防災科学技術リストの完成に向け、作業を進めております。

本状にて、頂いたご回答内容の確認、ご回答の取り扱いに関する作業部会の検討結果、ならびに仕上げに向けてお願いする作業内容をお伝え致します。

折角ご回答頂いたにも拘わらず、不採択とせざるを得ない結果となった各位には、大変申し訳なく存じます。個々の内容の質を審査する意図は全く無く、当初差し上げた依頼状に記載の本企画の目的に合致するかどうかという視点に絞った判断の結果とご了解頂くよう、お願い申し上げる次第です。

さらに、採択させて頂く方々には、全員に英文参考資料の作成をお願いするとともに、場合により修正や追加をお願いする方々がおいでです。ご多用中まことに恐縮ですが、それぞれご対応頂くよう、よろしくお願い致します。

## 1. ご回答内容の確認

お送り頂いたご回答の内容は表-1 のとおりです。ご確認をお願い致します。

表-1 頂いた資料チェックリスト

整理番号（以後のご照会には、この番号を用いて下さい。）							
題 目							
カテゴリー	英文 Form	和文様式	参考資料	英	和		
(注) カテゴリーの A1 は Form 1 による、A2 は Form 2 によることを意味します。							

## 2. 作業部会の検討結果

作業部会で慎重に検討の結果、貴殿から頂いたご回答を以下のように取り扱うことと致します。貴重な資料ですので、出来る限り有効に活かすべく努力致しましたが、一部変更をお願いする件があります。また、今回はご主旨に添えず不採択と判断した件もあります。これらにつき、ご了承頂くことをお願いする次第です。

表－2 頂いたご回答の取り扱い

a. このままの内容で採択（若干の事務的項目について要確認）		
b. 不足の英文 Form または和文様式を追加提出頂くことを前提に採択（表－1 参照）		
c. 記述の修正を頂くことを前提に採択（コメント参照）		
d. カテゴリーを変更のうえ採択（コメント参照）	変更内容	→
e. 不採択（コメント参照）		
コメント		
その他の注		

3. このあとの作業のお願い

表－2で a、b、c、d. に該当する方は、下記の要領に従って仕上げの作業をお願い致します。

表－3 今後の仕上げ作業

表－2の該当項目	下記において対応頂く事項
a.	(1)英文参考資料の作成、および(2)a)詳細な連絡先記入確認
b.	(1)英文参考資料の作成、(2)a)詳細な連絡先記入確認、および(2)c)不足している英文 Form または和文様式の作成
c.	(1)英文参考資料の作成、(2)a)詳細な連絡先記入確認、および(2)b)英文 Form、和文様式の修正
d.	(1)英文参考資料の作成、(2)a)詳細な連絡先記入確認、および(2)d)カテゴリー変更に伴い、変更後の英文 Form および和文様式の作成
注) 表－2で複数項目に該当する方は、それらすべてに対応してください。	

なお、作業頂く際のご参考までに、本状の後段に、アンケート依頼時にお送りした回答要領（別紙1）を添付致しますので、カテゴリーの主旨の確認等にご利用頂ければ幸いです。

(1) 英文参考資料の作成（すべての方）

参考資料は種々の形で頂きましたが、現段階では大部分が和文資料で、これらは作業部会での検討に活用させて頂きました。

当初のご案内のとおり、防災科学技術リストの完成に向けて、英文による参考資料を提出頂く必要があります。約 80 件と多数の項目を搭載することになった結果、参考資料にもページ制限（4 ページ以内）を設けることになりました。以下の要領で作成頂くよう、お願い致します。

a) 参考資料の構成

資料作成を容易にし、かつ読者が統一的な目で理解できるよう、以下のような構成で作成して頂くことと致します。

- ・ Ser No. （表－2 と整理番号を記入してください。）
- ・ TITLE OF THE TECHNOLOGY （英文 Form と同じタイトル）
- ・ CONTACT （英文 Form と同じ内容：読者が望めば確実に連絡が可能な情報としてください）
- 1. FEATURES OF THE TECHNOLOGY （技術の具体的内容：できるだけ図でイメージがわかるようにしてください）
- 2. ILLUSTRATIVE EXAMPLES （適用の具体的事例（試験的なものを含め）：できるだけ写真を用いてください）
- 3. SPECIFIC OBSERVATION IN THE DEVELOPMENT PROCESS （開発過程について、現場への適用戦略の観点から特記すべき内容があれば）
- ・ REFERENCES （詳しい説明については、できるだけ文献を挙げてください。カテゴリー－A（Form 1, 2 とも）については、英文のみとします。カテゴリー－Bについては和文

もやむを得ませんが、表現は英文に直し、末尾に(in Japanese)と付記してください。また、情報入手が可能なウェブサイトがあればぜひ含めてください。

b) 記述に関する要領

ステークホルダー向けに、できるだけ写真やイラストでイメージが伝わるようお願いいたします。文章は少なくし、詳細は REFERENCE で参照可能な形にしてください。

c) フォーマット

本信に、上記の主旨に従うフォーマットを本状末尾の別紙2に添付しておりますので、ページを切り取ってご利用ください。ページ制限の4ページは厳守してください。フォントは Times New Roman で、本文テキストのフォントサイズは9~11ポイントのいずれかとしてください。

(2) 英文 Form および 和文様式の修正・追加等 (該当する方)

英文 Form、和文様式に関する仕上げを以下の要領でお願いします。

- a) すべての方：英文 Form の 3. Name & Organization、および和文様式の 3.氏名・組織欄に、連絡担当者の氏名と組織名が入っているか確認してください。また、4. Contact Details、および 4.連絡先には、郵送先と e-メールアドレスが入っているか確認してください。
- b) 不足している英文 Form または和文様式の作成：英文 Form のみ、あるいは和文様式のみを頂いているかた (表-1 参照) は、不足分を作成してください。
- c) 表現の修正：表-2 のコメントをお読み頂き、別紙1 のアンケート記入要領の趣旨説明をご参考頂いて、英文 Form および和文様式の修正をお願い致します。
- d) カテゴリー変更の方：カテゴリーを A1 (Form1) から A2 (Form2) へ、A1 (Form1) から B (Form3) へ変更をお願いする方 (表-2 参照) は、ご面倒ですが、変更後のカテゴリーに従って英文 Form および和文様式の作成をお願いします。フォーマットは前回ご案内のとおり、文科省のホームページ ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijutu2/sonota/04083101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijutu2/sonota/04083101.htm)) からワードファイルでダウンロードできます。

4. 作業頂いた結果の送付要領 (締切り：11月30日)

作成頂いた英文参考資料、および修正または新規作成頂いた英文Form, 和文様式を、来る11月30日までに、電子メールにて ([arai@edm.bosai.go.jp](mailto:arai@edm.bosai.go.jp)) 新井 洋 (防災科学技術研究所地震防災フロンティア研究センター/ワーキンググループ幹事) 宛お送りください。作業日程に余裕がありませんので、期限厳守でお願い致します。

以上、よろしくお願ひ致します。重ねて、今回の企画へのご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

敬 具

本件の内容に関するお問い合わせは以下へお願ひ致します。

(ご連絡は、確実を期するためメールでお願ひ致します。)

防災科学技術研究所 亀田弘行 (分科会主査)

[kameda@bosai.go.jp](mailto:kameda@bosai.go.jp)

京都大学大学院地球環境学堂 ラジブ・ショウ (分科会幹事)

[shaw@global.mbox.media.kyoto-u.ac.jp](mailto:shaw@global.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)

または、他の作業部会委員 (別紙名簿)

## 科学技術リスト作成のためのアンケート記入要領

### 1. リストに掲載すべき技術に関する基本方針

「現場への適用戦略」の観点から、防災科学技術リストに掲載する技術を以下の2つの分類で整理します。

#### (1) カテゴリーA：適用戦略を持つ技術

日本が中心となって行った国際的な活動で、以下のような特質を備えた技術開発を重視することとし、このような技術を「適用戦略を持つ技術」と呼ぶことにします。出来る限り多数の、適用戦略を持つ技術の情報が寄せられることを期待します。

\* 「適用戦略を持つ技術」を規定する項目

- ① 独自の研究開発であること。
- ② 成果を利用する人たち（利害関係者・エンドユーザー／ステークホルダー）との直接対話を通じて、問題抽出、方法論の形成等が行われていること。
- ③ 研究・開発の結果に対して、成果を利用する人たちが「自分たちが作ったもの／自分たちが関わった成果」という積極的意識を持っていること。
- ④ 研究計画の段階で、現場への適用戦略に関する実質的な討議がなされたもの。
- ⑤ 地域で利用可能な材料、技術に立脚していること、低コストであることなど、地域特性を反映していること。
- ⑥ 研究の手段・プロセスは最先端の方法論が用いられ、地域が真に必要とする技術が生み出されていること。

#### (2) カテゴリーB：積極的に移転すべき技術

日本向けに開発された技術、あるいは古来行われてきた伝統技術や制度のうち、途上国の災害軽減に資するもので、以下のいずれかの要件を満たすものを「積極的に移転すべき技術」として、リストに掲載の方針といたします。

- 1) 現場での利用・管理が容易で低コストな技術や制度
- 2) 現地の技術・材料・自然特性に立脚し、環境への負荷が小さく、基本的に現地の資源（天然資源・人的資源・資金的資源）のみで維持管理できる伝統的な技術、体制等
- 3) 地域との直接対話の中で作られた、災害救援ボランティアマニュアルなど。

現場への適用戦略の観点からは、日本から途上国へ移転する場合に持つべき、社会経済的・文化的視点を提示頂くことを要件とします。

なお、日本人が海外で開発した技術は、基本的にカテゴリーAに属すると考えられますが、カテゴリーBの方が適切と考えられる理由がある場合はそのように扱って頂いて結構です。

### 2. 技術領域

- (1) 災害ハザードの種類：今回は、作成時間等の制約から、地震・津波災害および洪水・土砂災害を対象とします。
- (2) 防災技術としての領域：ここで意味する防災技術の領域は、ハザード評価、構造技術、計画論、プロセス論など、ハード系、ソフト系を問いません。上記の主旨に合致するものであれば積極的に掲載する方針とします。
- (3) カテゴリーA、Bで定義したように、必ずしも外国向けの技術でなく、日本国内向けの活動に基づく技術も対象としますが、その場合は英語のドキュメントを整備して頂くこと、今後国際的なアプローチがあれば対応して頂く体制があることを前提とします。

### 3. アンケート記入要領

- (1) ご回答の件数：回答は何件でも結構です。該当するとお考えのものをできるだけお寄せください。ただし、対象の選択に当たっては、上記カテゴリーA、Bの主旨に沿うものであることに十分ご留意願います。
- (2) 回答用紙：3組の回答用紙があります。技術の内容に従い、1件につきいずれかの1組を用

いてください。回答用紙の種類は以下のとおりです。

- 1) Form 1、様式 1 (カテゴリーAの開発成果と将来構想) : カテゴリーAに属し、すでに成果が挙げられている技術開発の結果を記入頂くとともに、よりよい技術に育てるために今後必要な構想・計画があれば併せてご記入ください。
  - 2) Form 2、様式 2 (カテゴリーAの研究開発計画) : 開発成果がまだ無くても、「適用戦略を持つ技術」の形成のために具体化しつつある研究開発計画があれば、お寄せください。
  - 3) Form 3、様式 3 (カテゴリーBの開発成果・技術特性) : カテゴリーBに属する技術要素についてご記入ください。
- (3) 科学技術リストは英語で作成しますので、回答は英文用の Form 1, 2, 3 が正式文書となります。政府事務局用の資料として、和文の様式 1、2、3 もあわせてご提出ください。
- (4) 英文 Form、和文様式への記入は、原則としてこのページに収まる程度の長さとし、別途、より詳しい説明、写真、図表などを含む参考資料を添付してください。
- (5) 参考資料の書式は自由ですが、回答用紙の表題と一致するタイトルを先頭に付けてください。また、編集可能なファイル形式 (Word、一太郎など) としてください。
- (6) 参考資料はアンケート提出時点では和文でも結構ですが、その場合、掲載が決まったものについては、改めて英文資料の提出をお願いすることになります。

#### 4. 提出頂くもの

- (1) Form 1+様式 1+参考資料、Form 2+様式 2+参考資料、またはForm 3+様式 3+参考資料でそれぞれ 1 セットを構成します。
- (2) これらのセットを何セット提出頂いても結構です。各表の頭とファイル名にお名前とセットの通し番号を入れてください。
- (4) 提出先 : 電子メールにて ([arai@edm.bosai.go.jp](mailto:arai@edm.bosai.go.jp)) 新井 洋 (防災科学技術研究所地震防災フロンティア研究センター/ワーキンググループ幹事) 宛
- (5) 提出期限 : 2004 年 10 月 8 日 (必着)

#### 5. 英文 Form および和文様式の入手、ファイル名の付け方など、注意事項

- (1) 英文 Form および和文様式は、文部科学省のホームページ ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijutu2/sonota/04083101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijutu2/sonota/04083101.htm)) からワードファイルでダウンロードできます。
- (2) 事務局での整理の都合上、提出頂くファイルには、以下の方式でファイル名をつけてください。  
(ファイル名) 氏名 (漢字またはカナで) 一通し番号 (ドット) 書類の種別 (Form1, Form2, Form3, 様式 1、様式 2、様式 3、または参考資料) (最後に (ドット) 修飾子)
  - ・例えば、防災太郎-1.Form1 、災害次郎-2.様式 3 、復興花子-1.参考資料 のような形をお願いします。
  - ・漢字以外の文字はすべて半角とし、間にスペースは入れないでください。

#### 6. アンケート集計とその後の作業

- (1) 頂いたアンケートの結果を作業部会で検討のうえ、10月末に採否等、結果を各位にお知らせし、あわせて、必要な項目については、参考資料の英語版を11月末までに提出頂くようお願いすることになります。
- (2) 12月中に最終的な整理を行い、2005年1月の国連防災世界会議に間に合うよう、防災科学技術リストを完成します。

#### 7. 回答例

いくつかの具体的事例に基づき作成した例 (カテゴリーAが3件 (ハード・ソフト)、カテゴリーBが1件) を添付しますので、ご回答頂く際の参考にして頂ければ幸いです。

## Technology List on Implementation Strategies for Disaster Reduction (Illustration) (別紙 2)

以下、すべて英語で作成してください。／最大 4 ページまで自由に拡大／本文のフォントは Times New Roman、フォントサイズは 9～11 ポイント／本フォーマット中の日本語説明は、資料完成後は消去してください。

Ser No. (表-2 の整理番号を記入)
<b>TITLE OF THE TECHNOLOGY</b> (英文 Form の設問 1 と同じ表題)
<b>CONTACT</b> (英文 Form の設問の設問 3, 4 と同じ表現：読者が望めば確実に連絡が可能な情報としてください。)

### 1. FEATURES OF THE TECHNOLOGY

(技術の具体的内容：できるだけ図でイメージがわかるようにしてください。)

### 2. ILLUSTRATIVE EXAMPLES

(適用の具体的事例 (試験的なものを含め)：できるだけ写真を用いてください。)

### 3. SPECIFIC OBSERVATIONS IN THE DEVELOPMENT PROCESS

(開発過程について、現場への適用戦略の観点から特記すべき内容があれば記述してください。)

### REFERENCES

(詳しい説明については、できるだけ文献を挙げてください。カテゴリー A (Form 1, 2 とともに) については、英文文献のみとします。カテゴリー B については和文もやむを得ませんが、表現は英文に直し、末尾に(in Japanese)と付記してください。また、情報入手が可能なウェブサイトがあればぜひ含めてください。)

- 1)
- 2)
- 3)